

「水土を守る人々」では、農業や農業用水の役割とこれらが持つ多面的機能等が十全に発揮されていくために、農業水利施設等の維持管理を支える人々の日常にスポットを当てて、その取り組みを紹介することで、農業農村整備や多面的機能の発揮が「人」の支えの上に成り立っていることを伝えていきます。
※不定期で掲載いたします。

水害は未然に防ぐ！地域一体となった防災体制の構築

～岩崎農地水環境保全組合 事務局長 ^{ながの よしのり} 長野 義徳 氏～ 大分県宇佐市

大分県宇佐市の東部に位置する岩崎地区は、^{より}寄藻川と^{むくの}向野川に囲まれ、山を背面にした地形で、ほとんど高低差のない約50haの水田を有する集落です。現在約200戸の世帯のうち、農業者は10戸程度です。混住化が進む中で、集落の農業資源を維持管理し次世代へ繋いでいくためには区民の全員参加による活動が必要であり、非農家の意識改革が必要と判断し、平成24年6月に「岩崎農地水環境保全組合」が自治会の下部組織として設立されました。



岩崎地区



長野義徳さん

今回、「水土を守る人々」で紹介するのは、岩崎農地水環境保全組合で事務局長を務める^{ながの よしのり}長野義徳さんです。

外資系半導体企業で生産管理や新設工場の立ち上げ、運営等を担当されてきた長野さんは、退職を機に故郷の宇佐市の農業委員として農業政策関係に携わることになりました。これまでの経験を活かし、岩崎農

地水環境保全組合の前身となる、岩崎地区の農業者による任意組織である「農業生産組合」の立ち上げ、転作に関する業務、老朽化したポンプ施設の更新などの農業施設・設備のインフラ整備に携わっています。平成29年度は自治会の区長も務め、地域の中心として活躍されています。

1. 地域をまとめる苦労話ややりがい

農家・非農家、自治会、子供会、婦人会など様々な立場の区民が混在する岩崎地区では、「全員参加」を合言葉に、農地・水路・農道・ため池などの地域資源の保全・維持活動、外来種の駆除などの生態系保全、防災・減災への取組、小学校や子供会と連携した食育などに取り組んでいます。



子供会の稲刈り体験

地域をまとめる中での苦労話ややりがいを長野さんに伺いました。

「集落住民は『一国一城』の主と言うスタンスで、集落内の業務に当たらなければならない、と言うのが経験則です。何事もうまくやるには常に量・質・時間の調和が必要です。

多面的機能支払交付金活動も、役員個々の思いと住民が協力をしてくれるレベルの調和を取らなければならない苦労があります。即ち、会社のような命令系統は存在しないので、常に話し合いを行い、状況を見て前に進めることが必要となります。

幸い、岩崎地区は市内では大きな集落で、それなりに予算もあり、「岩崎農地水環境保全組合」の役員も建設業、IT関係や行政などの様々な分野で活躍した方、活躍中の方が多く、人材に恵まれています。それゆえ、計画から実行までのプロセスも、それぞれの分野の知識や人脈を活かして自分たちの手で安価かつ効率的に進めることが出来、大分県多面的機能支払推進協議会から特別賞をいただいたり、農林水産省の多面的機能支払交付金事例研究会にパネラーとして出席したり、九州「農地・水・環境保全」フォーラムin佐賀で大分県代表として発表したりしたことで存在や活動が地区内の住民に広く知られるようになりました。このようなこともあり、役員共々やりがいを感じている昨今です。」とのことでした。

2. 防災への取組

岩崎地区は、2つの河川に囲まれた地形故に過去に何度も水害を受けてきた経験から、「集落内に水を入れない、入ったらすぐに出す。」をキャッチフレーズに、水害を未然に防ぐ、という方針のもと活動を行っているそうです。「避難しなくても良い状態を作り出すことが大事である。」というのが長野さんの考えです。

具体的な取組として、「地域の河川水位データと上流の雨量の関係を分析し、現状を把握したこと」、「集落の上流にある利用されていないため池に水抜きサイホンを設置し、降雨前に予め水位を下げて洪水調整池（貯水容量3～4万m³）としての機能を持たせたこと」、「揚水ポンプを利用し、河川水位が集落より高くなった場合でも、強制排水できる仕組みを構築したこと」、「水路の清掃や草刈り」が挙げられます。結果、集落や下流の農地の水害を防ぐことができたそうです。また、工事を自分たちの手で行うことにより、少ない費用で高い防災機能を強化できたという県内でも代表的な取組事例になったとのこと。



ため池の水抜きサイホン

また、岩崎地区には7名の防災士（※）がいます。現在防災マニュアルの作成中で、今年度中に避難計画まで完成させたいと考えているそうです。こういった取組により防災意識が地域に広まっていけばと長野さんは思っています。



河川への排水

※ “自助” “共助” “協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを、日本防災士機構が認証した人のこと。

3. 活動への想い

活動への想いや心がけていることをお聞きしました。

「事務局を担当しており、とにかく自分が呼びかけなければ人は集まらないので、自分の中の怠け者に打ち克って役員へ呼びかけし、計画を立案・実施することにより集落の為になるんだと自分に言い聞かせています。本当は、楽をしたい、自分の好きな事をしたいと思いますが、生まれ育った地元の事であり自分の活動で集落に貢献できればと思っています。」とのことでした。



組合員による排水管の据え付け状況

また、「私は『人は過去を背負って生きている』というのが信念で、親兄弟や働いてきた会社の評価が、自分への評価と捉えています。裏を返せば、自分の評価が子や孫、地域の評価に繋がっていきます。それだけに、否定されないような行動を心がけており、多面的機能交付金活動もその信念から生まれています。」とのことでした。

4. 最後に

岩崎農地水環境保全組合の清祐^{きよすけ}代表に、長野さんについて伺いました。

「長野さんは、企画力や行動力があって組織を引っ張ってくれる中心的人物です。毎月1回の役員会において提案、取りまとめをしています。それに対する準備や材料集めをしてくれる人などが現れ、地域みんなが協力して、長野さんに付いていっています。」



左から岡崎さん、清祐^{きよすけ}代表、都留さん、長野事務局長、末廣さん、末宗さん

また、地域の広報誌の中に、時の話題を絡めたコラム欄を設けています。活動を初めて6年になりますが、自分は1度書いただけでも相当大変な思いをしました。しかし、長野さんは6年間毎月書き続けています。とても勉強家で大変尊敬しています。そういう方に引っ張ってもらっています。」と語っていただきました。

長野さんについて語る清祐^{きよすけ}さんの言葉に、「その通り！」と頷く役員の方々。地域の方々の信頼も厚く慕われる長野さんが、益々ご活躍されることを祈念し、ご紹介とさせていただきます。

【九州農政局農村振興部設計課】